

ケルト、ユーラシア、 日本をつなぐ黄金文明

— 神話～美術～暦まで —

多摩美術大学名誉教授
日本ケルト協会顧問

鶴岡 真弓氏

高貴な者に治められた「国」の正統と歴史を証する聖なるシンボルとして、世界の様々な民族は、光輝なる「神器」の神話と歴史を今日に伝えてきました。

日本では「鏡・剣・勾玉」、アイルランド神話では「石・剣・楯・大釜」が伝わり、また現在のウクライナ辺りを故地とした、ユーラシア草原の「スキタイ」は黄金の「杯・斧・鋤（すき）・軛（くびき）」を神器としました。

このことから、それぞれの文化の固有性ととともに、共通の観念、すなわち「聖なるもの」「力あるもの」「豊かなるもの」をそれらの特別のモノに託した、精神文化と物質文化が浮き彫りとなります。

今回の30周年記念講演では、「ケルト」の歴史・神話・芸術を通して、「ケルト」文化が、孤立した文化であるどころか、「ユーロ＝アジア」文明の要素を共有する「東西を横断する古層」を育ててきたことを、探究します。

キーワードは、「ケルト」「神器」「インド＝ヨーロッパ語族」「スキタイ」その最大のテクノロジーと芸術性を表象する「黄金」と「冶金術」そして「暦」です。

※注：初めて参加される方々のために：「ケルト」とは人種を指すのではなく、古代から現代まで、ヨーロッパ各地で「ケルト語を用い文化を築いてきた言語・文化とその担い手」を指す術語です。遺跡から発掘される古代DNAの解析によって、一時期ケルト語話者はブリテン諸島には来なかったという「人種論」が唱えられましたが、現在では刷新されています。むしろ新たな研究はケルト語をその一員とする「インド＝ヨーロッパ語族」の文化が、今から5000年前頃に、現在のウクライナからカザフスタンに至る、いわゆる「黒海・カスピ海草原」地帯のヤムナヤ文化の人々が中央ヨーロッパに到達していたこと、即ちスイス、ドイツ南部、フランスのアルザス地方の新石器時代と初期青銅器時代の遺跡由来の個体のゲノム分析から明らかにされています。

鶴岡 真弓 (つるおか まゆみ)

多摩美術大学名誉教授。芸術人類学者。ケルト芸術文化&ユーロ＝アジア生命デザイン史研究家。早大大学院修了。アイルランド、ダブリン大学留学。処女作『ケルト/装飾的思考』（筑摩書房・第一回倫雅美術奨励賞）で日本でのケルト芸術文化理解の火付け役となる。アイルランドからヨーロッパ諸国、中央アジア、シベリア、日本に至る造形表象/マテリアル・カルチャーの根源を踏査、現在に至る。

◆主著『装飾する魂』『ケルトの魂』『ジョイスとケルト世界』（平凡社）『ケルトの想像力』（青土社）『図説ケルトの歴史（共著）』（河出書房新社）『阿修羅のジュエリー』（イースト・プレス）『ヨーロッパの装飾文様』（東京美術）◆訳書：ミーハン『ケルズの書』（岩波書店/創元社）◆映画『地球交響曲・第一番』でアイルランドの歌姫エンヤと共演。最新作映画『フィシスの波文』で日本とケルトの装飾文様を語り出演。◆『ケルト再生の思想：ハロウィンからの生命循環』（ちくま新書）で河合隼雄学芸賞。



ケルト渦巻文様、ダロウの書、アイルランド、7世紀



コネストロップの大釜、鳥の兜の騎士、大陸のケルト美術



黄金のトルク、ウクライナ出土の宝物

日時 2024年 12月8日<日> 14:00~16:00
(開場13:30~)

会場 アクロス福岡2F セミナー室

福岡市中央区天神1-1-1 Tel)092-752-9113

講師 多摩美術大学名誉教授
日本ケルト協会顧問 鶴岡 真弓氏

参加費 無料<先着70名>

●主催/日本ケルト協会、福岡アイルランド協会(併設)

●後援/福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団 (公財)福岡県国際交流センター支援事業

日本ケルト協会
事務局

〒812-0882 福岡市博多区麦野1-28-44

Tel・Fax)092-574-0331

http://www.celtic.or.jp

keiko-y@celtic.or.jp

ケルト協会
のHP



ケルト協会
のFBページ

